

# 第167回森で遊ぶ会・実施報告書 (桶ヶ谷沼)

1. 実施日時 令和元年12月18日(月) 9:40 ~ 14:20(現地)
2. 実施場所 桶ヶ谷沼・鶴ヶ池(静岡県、磐田市)
3. 参加インストラクター会員  
担当: 小久保、杉山  
アシスト会員: 大石、小嶋、佐野、高橋、中川、廣野
4. 一般会員の参加 合計28名(静岡市・22、藤枝市・3、富士市・2、島田市・1)
5. 募集方法 前回実施時に今回の募集、会員へのチラシ配布、会員への案内メール
6. 実施状況

桶ヶ谷沼では、過去に3年続けて現地集合でこの会を実施したことがある。ただこれは数年前でありこの間に新しく会員になった方も多く、それと今回はバスツアーにしたので足の便のない方も参加できる、ということで今回の企画に至った。この時期、桶ヶ谷沼の“売り”の一つはカモ類などの冬鳥、とりわけ毎年越冬のため渡ってくるコハクチョウだ。また周囲の照葉樹林には、他ではあまり見かけないカゴノキやシロダモなど、クスノキ科の樹木が多い。そこでこうした樹木に加えて、冬鳥も見ただこうという内容で参加者を募集した。桶ヶ谷沼の遊歩道を一周してから鶴ヶ池に移動、ここで冬鳥を間近に見てから解散という段取りである。

コハクチョウの飛来は暖かい静岡県では“迷鳥”扱いだ、ここ桶ヶ谷沼にはほぼ毎年2~3羽がやって来る。例年12月上旬~中旬にかけて姿を現す事が多いが、最近では飛来後1~2週間もすると昼間は採餌のため他に移動してしまうことが多い。そこで飛来直後のタイミングを見計らって、この日の設定とした。暮れも押し迫っての企画で参加者が少ないのではと危惧していたが、幸いいつも通り大勢の方に参加していただけた。ただ直前までの情報では「コハクチョウは、まだ」という話して、行きのバスの中では参加者には「残念ながら空振りの見込み」という話をさせてもらった。先月には全く突然のようにオオハクチョウが飛来という椿事もあったが、そのオオハクチョウも既に姿を消しており、「期待のハクチョウは無し」という覚悟で観察行に臨むことになった。しかし天が味方してくれたのか、行程最後の鶴ヶ池で2羽のコハクチョウを発見、皆さんに大変喜んでいただけた。観察小屋に居合わせたウォッチャーに聞くとちょうど今日飛来したのだとの由で、大いに面目をほどこした。

以下、観察行の様子を3つに分けた班ごとに報告したい。

## 【第1班】担当: 小久保、中川、廣野

沼の入口にはハンノキが立ち並んでいる。その枝先の冬芽をルーペで見比べてもらった。立派な雄花序と小さな雌花序、それらと芽鱗が異なる小さな葉芽とが並んでいた。照葉樹の林縁では、クスノキ科で互いによく似たカゴノキ、シロダモ、タブノキの枝葉を見比べてもらった。冬芽の違い、新枝の色、葉脈と葉裏の様子などからの見分け方を解説した。ヤブニッケイでは、その葉の香りと独特の葉序を見てもらった。シロダモは晩秋に黄色い花と赤い実が同時に見られるのでよい観察ターゲットになるのだが、残念ながら花はもう終わり、実をつけていた木はたった1本、しかも実もほんの少ししかなかった。なかなかコハクチョウとタイミングが合わない。

照葉樹林帯の林床には、濃橙色の実をたわわにつけたセンリョウが見られた。どういうわけか、ここ桶ヶ谷沼にはセンリョウが非常に多い。無論マンリョウも見かけたが、センリョウの方がずっと多いというのは珍しい。林床に

はアリドオシもあったので、皆で「一両」の実を探した。下りの階段脇に赤い実を発見すると、「あったわよ～」という嬉しそうな声が上がった。この時期になると、落葉樹はもう葉を落としているものが多い。この一帯の水辺では、棚を作るように水面に向けて枝を張りだしたアオハダがいくつも生えている。その鮮やかな黄葉がついていれば、絵のように美しい光景が見られるのだが、残念ながらどのアオハダにも葉が残っていなかった。仕方がないので資料に載せた黄葉のアオハダの景観を示しながら、「この写真は、この木を撮ったものです」と話した。

林内や林縁での冬鳥に関しては、ひょっとするとクロジやルリビタキに出会えるかもと期待していた。もともと「陸の鳥については、列の先頭の人には運が良ければチラッと見えるかも」と説明していたのだが、残念ながら殆ど姿を見ることができなかった。それでもシロハラ、アオジ、ジョウビタキ、メジロなどの声が聞こえた。シロハラやアオジが飛ぶのを一瞬だけ見たという人もいた。また桶ヶ谷沼にはカワセミが“常駐”している池があるので、そっとそこに近づいた。これも一瞬だが、先頭の数人はカワセミが飛ぶ姿を目撃できた。水鳥については、桶ヶ谷沼ではマガモが中心であまり面白くなかった。しかし隣の鶴ヶ池では、先ずコハクチョウ、それにヨシガモやコガモなどを見ることができた。今回は双眼鏡の他にフィールドスコープも持参し、それにスマホを取り付けて拡大映像を皆さんにライブで見てもらった。優雅なコハクチョウやナポレオンハットが特徴的なヨシガモなどの姿をアップで捉えたので、「わ～」という声が上がった。大勢の参加者に順番に見てもらい、大いに喜んでいただけたと思う。

(小久保、記)

#### 【第2班】担当：小島、佐野、高橋

ビジターセンターを出発し、沼に入る手前で、ヤブニッケイ、ハンノキがあったので、特徴について解説した。沼の栈橋沿いに、たくさんの竹の棒が刺してある光景が飛び込んできた。トンボが止まれるように設置しているのだが、その竹に刺さった一匹のバッタを発見。モズの「はやにえ」について解説した。その後、照葉樹林内に入り、カゴノキなど照葉樹を代表する樹木を観察した。また、林内には赤い実をつけたセンリョウが多くみられるようになってきたので、「赤い実」をつける理由を考えてもらった。鳥に食べてもらうように赤い色で目立たせていることや、鳥の色覚は人間以上に優れていることを解説した。

観察小屋に着くと望遠レンズで野鳥を撮影しているバードウォッチャーがいたので、鳥情報を教えてもらった。今日は、マガモしか見られないが、少し前に撮影したオオハクチョウの画像があるので、皆で見せてもらった。アップできれいに撮れていて、実際に見たような気分になった。

観察小屋を後にして散策を続けるとジョロウグモを発見。ここで、「クモの網」について解説。縦系と横系に触れてもらい、縦系は粘着性がないことを体験してもらった。その後、実をつけたアラカシがあったので、「ドングリと殻斗」について解説した。殻斗は害虫から実を護るためにあるもので、害虫が少なくなるとドングリは一気に大きくなることを話した。参加者は殻斗の働きが理解できたようで、「無駄なものは付いていないね」という声が上がった。

足元ばかりでなく樹冠も見てもらい森全体の様子を感じてもらった。木々の枝が重ならないようになっている様子や、大きな倒木があると、その周辺には色々な植物が一斉に生えている様子を見てもらった。植物たちが光を求めている様子を感じ取ってもらえたのではないかと思う。

午後からの鶴ヶ池での散策では、クチナシを発見。「こんな所に生えているの？」と驚いた様子だった。池ではマガモに交じってヨシガモを発見。双眼鏡を回しながら確認してもらった。マガモとヨシガモの違いよりも、頭の鮮やかな緑色の羽に感動した様子だった。コハクチョウが来ているとの情報が入った。探すすと2つの白い物体が見える。全く動かないので、何だかわからない。突然、首を上げた。「ハクチョウだ！」双眼鏡を回しながら、観察してもらった。皆さん、感動した様子で、「見られてよかったね」と声を掛け合っていた。帰りは、渡り鳥の飛行距離や睡眠について雑談をしながら戻ってきた。

(佐野、記)

【第3班】担当：大石、杉山

なじみの参加者なので、「へー!」という驚きが出る話とともに植物の基本的な構造の話もしながら観察を進めることとした。

まず出迎えてくれたのは、チャドクガに葉を食べられてしまったヤブツバキ。ここではヤブツバキのことよりもチャドクガについての解説を試みた。隣に育つ同じツバキ科のモッコクについては、モッコクが3大庭木であり江戸五木の一つでもある重要な造園木であったこと、それと江戸五木が何かについても説明した。ハンノキでは、裸芽の雄花雌花の冬芽と鱗芽の葉芽を比較、何故、湿地に適応できるのか、稲作との関係、放線菌との共生などについて話した。タブノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、カゴノキのクスノキ科の樹木の特徴と見分け方、薬効や利用についても解説した。

マンリョウでは葉粒菌との共生や果実擬態について説明、初めて聞く話に興味を持ってくれたようだ。ナツハゼがインフルエンザ感染予防に有効である話には「エッー!」が飛び出した。ムベでは、語源となった伝説を披露。「七五三の縁起木」であることが参加者の方から出たので、その理由についても説明を加えた。センリョウの説明では、果実をルーペでよく見てもらい、雄しべ雌しべの痕跡を花期の頃の写真と比較しながら確認してもらった。その原始的な構造に、不思議さを感じてもらえたようだ。アリドウシやヤブコウジなど赤い果実と金額の関係、万両から1両までのランク付けの根拠なども解説した。

野鳥観察では、なんと言ってもコハクチョウが見れたことが、皆さん共通の感動であった。ゆっくりと水面を移動する優雅な気品に満ちた姿に、時間の経つのを忘れた。令和元年の最後の「森で遊ぶ会」の有終の美であった。

(杉山、記)



これはシロダモで... 最初から列は渋滞



カゴノキとタブノキの枝葉の違いを見る



インストラクターが先頭で各班の列が続く



インストラクターの説明に耳を傾ける



林床一面のセンリョウが実をつけていた



照葉樹林の中を登って行く。あと、もう少し



「何か面白いものないかな？」“獲物”を探しながら歩く



落ち葉を踏みしめながら、気持ちの良い散策路を進む



鶴ヶ池の畔で昼食タイム



何やら白い塊が... あっ、コハクチョウだ!



ほら、あれ! コハクチョウよ



コハクチョウのペアとヨンガモがよく見えた



私にも見せて... わ~すてき!



皆、コハクチョウの優雅な姿に心癒された



Just in Time で来てくれて、有り難う!